

今年の4月から野田中学校に勤務している。野田中学校にきて唯一残念なことがある。それは、W先生と一緒に働くことが叶わなかったことである。自分の教諭時代を振り返ると、実に多くの先生方に迷惑をかけてきた。表現を変えるとすれば、支えていただいていた。

学級担任としては、同学年の先生方に助けていただいた。部活動顧問としては、もう一人の顧問である女性の先生方に、ずいぶんと迷惑をかけた。ある程度、自分のやりたいようにできたのは、女性の顧問の先生のおかげである。

初任の小学校から2校目の中学校に移り、ソフトテニス部の顧問となった。そこでは、女性の美術科の先生と家庭科の先生に支えていただいた。今でも感謝している。4校目の中学校では、英語科の先生と家庭科の先生のお世話になった。今でも恩義を感じている。そして、私が最も感謝し、恩義を感じ、その教員としての姿から勉強させていただいた方がW先生である。

W先生は、保健体育科の先生で、中学から高校、大学とソフトテニス（軟式テニス）を専門にやってきた方である。私なんかよりも選手としての実績がある。車のトランクには何本ものラケットが入っていた。

私は3校目の中学校に転勤となった。その学校では、女子ソフトテニス部ができてまだ3年目だった。W先生が顧問としてチームをつくっているところだった。そこに私が行くタイミングで男子ソフトテニス部ができた。私が一応男子顧問で、W先生が女子顧問だったように記憶しているが、実際には私が男女の顧問で、W先生がサポートの役割を担ってくれた。

この学校でも、W先生に迷惑をかけながら、学校にはテニスコートがないなどの制限が多い環境の中で、自分のやりたいようにした。W先生は、技術的なサポートだけではなく、生徒のケアがすばらしかった。並の教員ではなかった。

彼女は、学級担任を務め、学年の生徒指導係も担っていた。私は、その学年の国語の授業を担当していた。あの当時は、お世辞にも落ち着いた学校とは言えない状況だった。来る日も来る日も、彼女も私も問題行動の対応に追われる日々だった。

私の中には、もうだめだという思いがあった。しかし、何とか毎日学校に行くことができたのは、W先生をはじめ先生方のおかげである。自分としては、何をしているわけではないのだが、生徒指導主事という立場と責任が、自分を追い詰めていたのだろうと思う。実際には、W先生のように学年の生徒指導係の先生のほうが、よっぽど大変だったはずである。

W先生の通信票の担任としての所見は、今でも覚えている。記入欄などかるく突破し、たくさん書いてあるのだが、そこには生徒への愛があった。通信票は、ずっと残る。生徒はそれを見る度にどう思うのだろう。ぜひ若い先生方に見せたい文章だった。

W先生の仕事ぶりには、他への波及効果があった。生徒はもちろんのこと、保護者、そして先生方に対してもである。実際、私も彼女から多くのことを学ばせていただいた。彼女は、勤務する学校が変わっても、仕事のポジションが変わっても、ずっと変わらなかった。

W先生と2年間、苦楽をともにしたが、私が急遽、海外に行くことになり、立つ鳥跡を濁すの典型で、大変なご迷惑をかけた。4月から野田中学校に行くことがわかり、またW先生と働くことを楽しみにしていた。恩返しができると思っていた。それは、彼女の定年まで数年を残してのご退職により叶わなかった。教育界の損失である。だからといって、W先生と出会えた生徒、そして先生方が彼女からいただいたものは、少しもあせることはなく、ずっと残る。

一人でも多く、W先生のような教員を育てることが私にできる恩返しだと考えている。4月から毎日、W先生がいるものと思って私が働いているのは事実である。彼女は、私が出会った先生の中で最高の一人である。これからも、W先生に感謝しながら、この学校で働いていきたい。